

単元名

「1次関数」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とかかわる力

① 単元について(単元観・生徒観・指導観)

1 単元観

本単元は、学習指導要領のC-(1)の、「具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う」ことを目標としている。

小学校算数科では、第4学年から第6学年にかけて、数量の関係を□、△、a、x等を用いて式に表しそれらに数を当てはめて調べたり、変化の様子を折れ線グラフで表し変化の特徴を読み取ったり、比例の関係を理解しこれを用いて問題解決したり、反比例の関係について理解したりしてきている。第1学年では、具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べ、関数関係について理解し、比例、反比例を関数としてとらえ直した。そこでは、変数と変域や座標について理解するとともに、比例、反比例の関係を表、式、グラフ等で表し、それらの特徴をとらえ、比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明することを学習している。

第2学年では、第1学年と同様に具体的な事象における二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察する。また、一次関数は比例の学習の発展でもあり、同時に、変化の割合に着目するなど、文字を用いた式によって関数をより深く学習する入口ともなっている。

2 生徒観

今年度行った、広島県「基礎・基本」定着状況調査の関数領域における問題は、**6**と**10**であった。内容は、**6**(1)が、表から2つの数量関係を式で表したものを選択する問題。**6**(2)は、比例のグラフ上にある点の座標を1つ答える問題。**10**(1)は、一部の比例のグラフから、グラフ上に示されていない値を求める方法を説明する問題。**10**(2)は、時間を1/2倍にするためには、速さを何倍にすればよいかの答えと理由を選択する問題であった。

**6**の問題については通過率が80%を超えておりおおむね定着が図られているものの、**10**の問題では、下記の表から分かるように、数学的用語を用いて説明する力や日常的な事象から2つの数量関係の変化や対応の仕方を読み取る力に課題があることが分かる。

<b>10</b> (1)	解答類型6	8.6%	解答類型7	2.3%	解答類型9	26.5%	解答類型10	10.8%
通過率 51.8% 【県差-1.8%】	記述不足 例:式を求めればよい 例:代入すればよい 例:比例式をつくれればよい		記述不足 例:表をかけばよい 例:数値を使って計算すればよい		左記以外の解答による誤答		無解答	
<b>10</b> (2)	解答類型2	41.0%	解答類型3	14.9%	解答類型4	5.8%	解答類型10	1.8%
通過率 36.5% 【県差-0.3%】	歩く速さを2倍にすればよい。なぜなら、式から到着までにかかる時間は歩く速さに比例するから。		歩く速さを1/2倍にすればよい。なぜなら、式から到着までにかかる時間は歩く速さに比例するから。		歩く速さを1/2倍にすればよい。なぜなら式から到着までにかかる時間は歩く速さに反比例するから。		無解答	

3 指導観

指導にあたっては、主体的・探究的な学びとなるよう、常に生徒が必然性を持って活動できるよう、①単元の学習のつながりを意識させること、②単元全体にストーリー性を持たせることなど踏まえ、課題の設定を工夫する。そこから生徒は、必要な情報を取捨選択し、既習事項をもとに課題を解決していく活動を積み重ねることで、思考力・判断力・表現力の向上を図る。さらに、個人で解決が難しい課題や支援が必要な場面、又は自分の考えを深めたり広げたりする場面において、4人班を適宜仕組み、協力して課題に取り組んだり、意見を交流したりするための時間をとる。また、特に授業に遅れが出るような生徒に関しても机間指導や補助的なワークシート等で支援することに加え、この4人班における教え合い活動で、「分かる生徒が積極的に教える」「分からない生徒は積極的に質問する」という視点で評価を行い、生徒が主体的に学ぶことができる環境をつくる。

本単元では、日常生活にある具体的な事象を多く取り入れ、興味・関心を持たせ、処理的なものだけの習得にとどまることなく、関数関係を見いだす力や多様な手法により結果を推測したり判断したりする力も養わせる。

## ② 単元の目標と身に付けさせたい力について

### 1 単元の目標

- (1) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを理解することができる。
- (2) 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができる。
- (3) 二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。
- (4) 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明することができる。

### 2 単元の評価規準

ア 数学への 関心・意欲・態度	イ 数学的な 見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などに ついての知識・理解
様々な事象を一次関数として捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。	一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。	一次関数の関係を表、式、グラフを用いて的確に表現したり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみてグラフに表したりするなど、技能を身に付けている。	事象の中には一次関数として捉えられるものがあることや、一次関数の表、式、グラフの関連などを理解し、知識を身に付けている。

### 3 本単元で育成を目指す資質・能力

#### (1) 本校の設定した資質・能力と本単元との関わり

資質・能力	特に身に付けさせたい力	本単元での 育成・評価
知識・技能	知 ①学習したことを自ら語れる力 (知の構造化)	○
思考力・ 判断力・ 表現力	思 ①根拠をもとに、正しい判断をする力 (論理的思考力)	○
	②よりよい解決のため、いろいろな見方・考え方を持つ力 (批判的思考力)	○
	③自分の考えを相手が納得できるよう分かりやすく伝える力 (言語力)	○
主体的に学ぶ力	主 ①自ら課題を見だし、解決しようとする力	○
他者とかかわる力	他 ①他者と協力 (協働) し、課題を解決しようとする力	○
	②他者とかかわりを通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとする力	○
社会貢献力	社 ①よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	—
自己形成力	自 ①前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力	—
	②自信を持つ力	—

#### (2) 本単元で本校の設定した資質・能力を身に付けさせるための手立て

資質・能力	資質・能力を身に付けさせるための手立て
知ー①	本単元で学習した数学的用語の意味やその使い方を説明させる。
思ー①	複数の表やグラフ、式などを比べることで1次関数の特徴を見だしその特徴を根拠にした説明をさせる。
思ー②	個人思考で考えをまとめ、集団思考において考えを広げ、再度個人思考により考えを深める場を設定する。
思ー③	グループ内で全員が表・式・グラフ等を用いてプレゼンをする場を設定する。
主ー①	「なぜ?」「やってみよう」と自らの必然性を強く感じさせるような課題設定を行う。
他ー①	難易度の高い課題を設定し、他者と協力して解決の見通しをもつ場を設定する。
他ー②	周りからの意見を交流する場を設ける。

### ③ 単元計画

1 単元の全体像（Ⅰ：学習内容，Ⅱ：学習活動，Ⅲ：単元として生徒に身に付けさせたい力）

Ⅰ 具体的な事象の中から二つの数量について，	Ⅱ それらの変化や対応を調べることを通して，	Ⅲ 一次関数に対する理解を深め関数関係を見だし表現し考察する力を養う。
------------------------	------------------------	-------------------------------------

2 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題①	評価基準	
あなたは、携帯電話会社ソフトダンスの販売員です。今、M先生とH先生、S先生の3名がソフトダンスで新型スマートフォンのj-phoneを買い替えようと検討していますが、3つあるプランのうち、どのプランで買えばよいか悩んでいます。そこで、販売員のあなたは、3人の先生に納得して買っていただくため、先生たちの現在の携帯電話の利用状況を聞き、お得なプランをプレゼンします。プレゼンの際には、見た目でも分かりやすいよう工夫してくれるといいですね。	A	他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができている。
	B	グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができている。
	C	グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。
パフォーマンス課題②	評価基準	
1999年のスキージャンプ世界選手権大会では、日本人が金銀銅を独占しましたが、その後のルール変更により、翌2001年の大会では、日本人がメダルを手にすることができませんでした。日本スキー連盟の会長であるあなたは、「日本人が活躍できなかったのは、このルール変更にある」という日本人選手のファンの声を受けて、国際スキー連盟に抗議するかどうか考えています。次の資料をもとに、抗議をするかしないか決断してください。またその理由も説明してください。	A	他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができている。
	B	グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができている。
	C	グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。

3 学習内容と評価の計画

学習過程	時	<input type="radio"/> 本時のめあて <input checked="" type="radio"/> 学習内容	評 価				
			関	考	技	知	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】 ※評価規準の太字ゴシック体の部分において本校が設定した資質・能力を評価する。
課題の設定	1	<input type="radio"/> 新しい関数を探し出すことができる。 <input checked="" type="radio"/> ともなって変わる2つの数量関係を見出し、一次関数の関数関係について考察する。	○				一次関数に関心を持ち、具体的な事象の中から一次関数として捉えられる2つの数量関係を自ら見いだしたり、式で表したりしようとしている。(行動観察) 【主-①】
情報 整理・ 分析	2	<input type="radio"/> 一次関数の値の変化の仕方について調べることができる。 <input checked="" type="radio"/> 表と式とグラフ①		◎			一次関数の <b>変化の割合が一定であることを表から見いだすことができる。</b> (ノート) 【思-①】
	3	<input type="radio"/> 変化の割合について、理解を深めることができる。 <input checked="" type="radio"/> 表と式とグラフ①			◎		一次関数の変化の割合を、「 <b>増加量</b> 」ということばを用いて説明することができる。(ノート) 【知-①】
	4	<input type="radio"/> 一次関数のグラフの特徴を調べることができる。① <input checked="" type="radio"/> 表と式とグラフ② (切片)	○				一次関数のグラフに関心を持ち、その特徴やかき方などを、 <b>グループで協力して調べようとしている。</b> (行動観察) 【主-①】 【他-②】
	5	<input type="radio"/> 一次関数のグラフの特徴を調べることができる。② <input checked="" type="radio"/> 表と式とグラフ③ (傾き)				◎	一次関数の <b>傾きと切片がグラフや式のどの部分を指しているのかを示すことができる。</b> (ノート) 【知-①】
	6	<input type="radio"/> 一次関数のグラフをかくことができる。① <input checked="" type="radio"/> 表と式とグラフ④ (グラフをかく)				◎	一次関数の式をもとに、 <b>切片と傾きに着目し、効率的にグラフをかくことができる。</b> (ノート) 【知-①】

情報 の 集 集	7	○一次関数のグラフをかきことができる。② ●表と式とグラフ⑤(変域があるときや切片が分数のときのグラフのかき方)	○		一次関数の変域をもとに、 <b>グラフの両端の座標に着目し、効率的にグラフをかき方法を見いだし説明することができる。</b> (行動観察)【思-③】
	8	○一次関数の式を求めることができる。① ●表と式とグラフ⑥(傾きと切片、1点の座標と傾きが与えられている時の求め方)		◎	与えられた情報から、 <b>一次関数の式を求めることができる。</b> (ノート)【知-①】
	9	○一次関数の式を求めることができる。② ●表と式とグラフ⑦(2点の座標、複数の情報が与えられている時の求め方)		◎	与えられた情報から、 <b>一次関数の式を求めるためのよりよい方法を見いだすことができる。</b> (ノート)【思-①, ②】
	10	○これまで学習した事を整理することができる。 ●表と式とグラフ⑧(学習したことをコンセプトマップに整理する)		◎	表・式・グラフの関係を、 <b>学習したことを用いて、自分なりにわかりやすく整理することができる。</b> (コンセプトマップ)【知-①】
課題 の 設 定	11	○二元一次方程式は一次関数といえるかどうか調べることができる。 ●一次関数と二元一次方程式	○		<b>二元一次方程式と一次関数の関係に関心をもち、二元一次方程式の解と一次関数のグラフの関係について考えよう</b> としている。(行動観察)【主-①, 他-②】
情報 の 集 集	12	○二元一次方程式 $ax + by = c$ の $a$ や $b$ の値が0のときの特徴を調べることができる。 ● $y = 2$ , $x = 2$ のグラフ ( $y = 2$ , $x = 2$ が関数であるかどうかの吟味)		◎	二元一次方程式 $ax + by = c$ のグラフをもとに、 <b><math>a = 0</math> や <math>b = 0</math> の場合のグラフをかき</b> ことができる。(ノート)【知-①】
	13	○連立方程式をグラフに表したときどんなことが分かるかを調べることができる。 ●グラフの交点と連立方程式の解(グラフの交点の意味)		◎	連立二元一次方程式の解は、 <b>2つの二元一次方程式のグラフの交点の座標と一致</b> することを見いだすことができる。(ノート)【思-①】
	14	○これまで学習した事を整理することができる。 ●一次関数と二元一次方程式の関係(学習したことをコンセプトマップに整理する)		◎	一次関数と二元一次方程式との関係を、 <b>学習したことを用いて整理</b> することができる。(コンセプトマップ)【知-①】
ま と め ・ 創 造 ・ 表 現	15	○一次関数で学習したことを活用して、課題を解決することができる。① ●図形の動きをグラフで読み取る		◎	グラフから、その事象における <b>2つの数量関係がどのように変化したのかを正確に捉え、その事象の変化の様子を文章で説明</b> することができる。(ノート)【思-③】
	16	○一次関数で学習したことを活用して、課題を解決することができる。② ●グラフの交点を分析する		◎	事象の2つの数量の変化の様子をグラフにおこした際の <b>交点に着目しその座標を求めること</b> によって課題を解決することができることの見通しを持つことができる。(ノート)【思-②】
実 行	17	【パフォーマンス課題①】 ○学習したことを活用して、パフォーマンス課題①を解決することができる。 ●携帯電話を売り込もう(表やグラフから分析する)		◎	具体的な事象から取り出した2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、 <b>表や式、グラフなどを用いて説明</b> することができる。(ワークシート)【思-③】
	18	【パフォーマンス課題②】 ○学習したことを活用して、パフォーマンス課題②を解決することができる。 ●公正なルールについて考える(資料から分析する)		◎	具体的な事象から取り出した2つの数量の関係について、 <b>自ら課題を見だし、その課題解決のために他者の考えも踏まえよりよい方法を見いだそう</b> としている。(ワークシート)【主-①, 他-①】
振 り 返 り	19	○本単元のまとめと振り返りを行うことができる。 ●単元の振り返り(学習した事をコンセプトマップに整理し、単元の振り返りを行う)		◎	<b>本単元を学習して、何を学習したのか、どんな知識・技能を得たのかを振り返</b> ることができる。(コンセプトマップ, 振り返りシート)【知-①】

## ④ 本時の学習

### 1 本時の目標

一次関数についての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりすることができる。

### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
ア 具体的な事象から取り出した2つの数量の関係について、 <b>自ら課題を見だし、その課題解決のために他者の考えも踏まえよりよい方法を見いだそうとしている。</b> (ワークシート)【主-①, 他-①】	A	他者の考えも踏まえ自ら結論を導き、その結論を表や式、グラフ等の数学的な表現を用いて、的確に説明することができる。
	B	グループに協力を仰ぎながら、資料から必要な情報を取り出し、それを表やグラフなどで整理・分析して結論を導き出すことができる。
	C	グループと協力して、資料から必要な情報を取り出し、課題を解決しようとしている。

### 3 準備物

ワークシート, 電卓, 提示問題, 評価用座席表, 実物投影機, プロジェクター

### 4 学習展開 (18限目/19)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り																																																							
学 習 活 動		指導上の留意点				評価規準 (評価方法) 【資質・能力】																																																							
導入 (5分)	<p>【パフォーマンス課題②】</p> <p>1999年のスキージャンプ世界選手権大会では、日本人が金銀銅を独占しましたが、その後のルール変更により、翌2001年の大会では、日本人がメダルを手にすることができませんでした。日本スキー連盟の会長であるあなたは、「日本人が活躍できなかったのは、このルール変更にある」という日本人選手のファンの声を受けて、国際スキー連盟に抗議するかどうか悩んでいます。次の資料をもとに、抗議をするかしないか決断してください。またその理由も説明してください。</p>																																																												
	<p>ルール改正前 (スキー板の長さ) = (身長) + 80</p> <p>ルール改正後 (スキー板の長さ) = (身長) × 1.46 (身長の単位: cm)</p>																																																												
	<p>スキージャンプ 世界選手権 (1999年)      ルール改正前</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>国・地域</th> <th>選手</th> <th>身長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金</td> <td>● 日本</td> <td>船木和喜</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>銀</td> <td>● 日本</td> <td>宮平秀治</td> <td>172</td> </tr> <tr> <td>銅</td> <td>● 日本</td> <td>原田雅彦</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>✚ フィンランド</td> <td>ヤンネ・アホネン</td> <td>184</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>☞ オーストリア</td> <td>マルティン・ヘルバルト</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>● 日本</td> <td>葛西紀明</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table>		順位	国・地域	選手	身長	金	● 日本	船木和喜	175	銀	● 日本	宮平秀治	172	銅	● 日本	原田雅彦	173	4	✚ フィンランド	ヤンネ・アホネン	184	5	☞ オーストリア	マルティン・ヘルバルト	182	5	● 日本	葛西紀明	176	<p>スキージャンプ 世界選手権 (2001年)      ルール改正後</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>国・地域</th> <th>選手</th> <th>身長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金</td> <td>☞ ポーランド</td> <td>アダム・マリシュ</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>銀</td> <td>☞ ドイツ</td> <td>マルティン・シュミット</td> <td>185</td> </tr> <tr> <td>銅</td> <td>☞ オーストリア</td> <td>マルティン・ヘルバルト</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>☞ オーストリア</td> <td>シュテファン・ホルンガッハー</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>● 日本</td> <td>原田雅彦</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>● 日本</td> <td>葛西紀明</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table>				順位	国・地域	選手	身長	金	☞ ポーランド	アダム・マリシュ	170	銀	☞ ドイツ	マルティン・シュミット	185	銅	☞ オーストリア	マルティン・ヘルバルト	182	4	☞ オーストリア	シュテファン・ホルンガッハー	180	5	● 日本	原田雅彦	173	8	● 日本	葛西紀明
順位	国・地域	選手	身長																																																										
金	● 日本	船木和喜	175																																																										
銀	● 日本	宮平秀治	172																																																										
銅	● 日本	原田雅彦	173																																																										
4	✚ フィンランド	ヤンネ・アホネン	184																																																										
5	☞ オーストリア	マルティン・ヘルバルト	182																																																										
5	● 日本	葛西紀明	176																																																										
順位	国・地域	選手	身長																																																										
金	☞ ポーランド	アダム・マリシュ	170																																																										
銀	☞ ドイツ	マルティン・シュミット	185																																																										
銅	☞ オーストリア	マルティン・ヘルバルト	182																																																										
4	☞ オーストリア	シュテファン・ホルンガッハー	180																																																										
5	● 日本	原田雅彦	173																																																										
8	● 日本	葛西紀明	176																																																										
<p>【本時のめあて】</p> <p>学んだことを活用して、パフォーマンス課題を解決しよう。</p>																																																													
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の流れを確認する。</li> <li>課題把握をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の流れと、評価規準について確認させる。</li> <li>資料について確認をする。 資料1: ルール改正前とルール改正後のスキー板の長さの規定 資料2: ルール改正前の世界選手権の結果とルール改正後の結果</li> <li>身長を <math>x</math> cm, スキー板の長さを <math>y</math> cm とすると、改正前: <math>y = x + 80</math>, 改正後: <math>y = 1.46x</math> と表すことができ、ルール改正前は一次関数, ルール改</li> </ul>																																																											

		<p>正後は比例の関係であることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキージャンプの競技がどのようなものであるか写真や映像などでイメージをつくり、板の長さが長いほど飛距離を出すのに有利に働くことを伝える。</li> <li>・スキーマの板の長さは、身長が基準となっていることを確認する。</li> <li>・自分が選手だとしたら、改正前と改正後でスキーマの長さがどのように変わるか調べさせる。</li> </ul>	
展開①(20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人思考(4人グループによる)</li> <li>・資料から何を調べたらよいか見通しを持つ。</li> <li>・どうすれば、ルール改正の是非を判断することができるのか考える。 (J)…じっくり考える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をどのように整理すれば、ルール改正の是非を判断することができるのかを考えさせる。 →まずはルール改正前と改正後で、スキーマの板の長さがどのように変わったのか調べてみよう。</li> <li>・必要があれば電卓を使用させる。</li> <li>・ルールでは飛距離の計算について、cm未満は切り捨てることを伝える。</li> <li>・支援が必要な生徒については、必要に応じて、表やグラフで整理できるよう、支援カード(すぐカードに書き込んで整理できるようなもの)を準備する。</li> </ul>	ア 具体的な事象から取り出した2つの数量の関係について、自ら課題を見だし、その課題解決のために他者の考えも踏まえよりよい方法を見いだそうとしている。 (ワークシート) 【主-①, 他-①】
展開②(10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団思考 (H)…はっきり表現する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を持った決断に近づくために参考となりそうな生徒の考えを2名程度指名し、全体へ発表させる。 (例) 私は、選手ごとに改正前と改正後のスキーマの板の長さについて表でまとめました。 表からは、・・・ (例) 私は、ルールの改正前と改正後の身長とスキーマの板の長さの関係をグラフにして考えました。グラフからは、・・・</li> </ul>	
展開③(5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人思考</li> <li>・集団思考を受け、さらに自分の考えをビルドアップさせる。 (J)…じっくり考える)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・席を前向きにし、個人で思考を整理させる。</li> <li>・文章で決断した理由を書かせるが、それに必要な表や式、グラフも載せておくことを確認する。</li> <li>・授業後ワークシートを提出させ、評価基準に基づき評価を行う。</li> </ul>	
まとめ(10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のパフォーマンス課題についてまとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本スキー連盟は抗議しなかったことを伝え、このことについて、生徒に考えを問う。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの考えや思考がこの一時間でどのように変化したのかを視点に振り返りを行う。</li> <li>・数学的根拠をもとに判断することの意義について生徒に感想を書かせる。</li> </ul>	